

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年 5月 9日

事業所名 運動・言語療育Schoolあみ吹田校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	25.0%	75.0%	集団活動後、個別訓練室でPTやOT療育を展開し、ご利用者が集中して取り組む体制を提供している。	広さや人数に応じ、運動療育の幅を変化させ、質の高いプログラムを提供する意識が必要である。
	2	職員の配置数は適切である	87.5%	12.5%	職員の公休日にばらつきを持たせ、バランスの取れた配置のための出勤状況を展開している。	保育士や各専門職員の配置バランスを考慮し、今後も出勤状況を調整していく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100.0%	0.0%	フロア内は全面フラット化されており、下肢の扱いが苦手なご利用者様でも移動が難しい構造となっている。また、バギー等を利用して来所されるご利用者様がスムーズに移動できるよう建物内のエレベーターを利用可としている。	エレベーター利用の周知を今後もしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	87.5%	12.5%	ご利用者様の帰宅後は利用したグッズや部屋、遊具はすべて清掃・消毒作業を徹底している。	家電類の清掃・点検も義務付けていく。また、適宜換気も行い清潔な環境を整えていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100.0%	0.0%	業務内容の精査・改善のため職員間でのコミュニケーションを取りやすい雰囲気づくりを各職員が意識している。	業務改善時は過程だけではなく、結果も踏まえて更なる改善をしていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	87.5%	12.5%	昨年度に引き続きアンケートを実施し、第三者目線での意見聴取を行っている。	保護者様のご意見を第三者目線のご意見として真摯に受け止め、職員間で話し合い改善に向けた会議を行い質の向上を図っている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100.0%	0.0%	昨年度に引き続きアンケートを実施し、現場職員の意見を元によりよい空間作りを心掛けている。	現場職員間での意見を聴取し、より質の高い運動が提供できる空間作りを心掛けている
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0.0%	100.0%		実施していない。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100.0%	0.0%	毎月1~2回の研修機会を設けている。各専門職員による知識・技術の共有等をしている。	昨年度同様に研修内容が難しくなりすぎないよう、各研修担当が研修内容を準備していく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100.0%	0.0%	見学・体験時に相談室にて保護者様のニーズや想いを聞き取り、同時にお子さまの様子を各支援員が記録を取っている。	保護者様に体験時から、有益な情報提供を心掛け、「来てよかった」と思ってもらえるよう心掛けている。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	75.0%	25.0%	ご利用者様の様子を活動記録やケース記録に書き起こし、カルテのような形でどの職員が見てもわかりやすいよう情報を日々整理している。	昨年度同様、保護者様からの情報開示請求があればすぐに開示できるよう準備をしていく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100.0%	0.0%	見学・体験時の様子とアセスメントの内容を鑑みてカンファレンスを行い、各専門職員の意見も含めた支援計画の作成をしている。	保護者様に提示する際は一般的な言い回し(専門用語)は控え、わかりやすい内容での作成を心がける。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	87.5%	12.5%	支援計画の内容は各担当者を中心に周知し、保護者ニーズとズレの無いよう支援を展開している。	昨年度同様、支援計画の内容をいつでも各支援員が閲覧できる状態にしていく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	87.5%	12.5%	プログラム等は保育士・PT・OTを中心に会議を開き、週間毎にプログラムを作成している。	楽しみの視点も大切にしながらより機能改善に近いプログラムを提供する。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100.0%	0.0%	週替わりで内容を変えている。	初週での様子を見ながら臨機応変に変更していく必要がある。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	100.0%	0.0%	保護者ニーズを第一に捉え、各支援員の意見も参考に作成している。	個別・集団活動の目的の明確化を図る。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100.0%	0.0%	朝礼時に一日の流れや送迎の注意点など各支援員の動きを確認し、情報の共有をしている。	事前にリスクのありそうな点に関しては周知を行いスムーズな業務に繋げられるように心掛ける。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	62.5%	37.5%	業務日誌作成のために一日の振り返りを可能な限り行い、送迎等でその日に確認できなかった職員に関しては翌日の朝礼で周知を行っている。	可能な限り一日の中で振り返りができるような体制は整えるが、送迎関係で困難な場合があるため、特記事項に関しては口頭でもその日のうちに伝達し、後日詳細を共有する。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100.0%	0.0%	活動記録・評価記録をつけ、閲覧可能な状態に常している。	特記事項に関する日は日ごとに記録をつけ周知を行う。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100.0%	0.0%	モニタリングの時間を確保し、適切な対応を心がけている。	現場職員間とも会議で共有し、都度修正を図る。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100.0%	0.0%	担当者会議へ参加し、事業所内の様子や目標を随時共有している。	事業所側からより積極的に開催を促し、よりよい支援へと繋げていく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	87.5%	12.5%	相談支援事業所等を良好な関係性を構築できている。	発達支援センター等の公的機関とも連携しながらよりよい支援へ繋げていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	62.5%	37.5%	必要に応じて、適宜連携を図れる体制を取っている。	緊急時にすぐに連絡ができるよう職員間でも共有を行う。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	62.5%	37.5%	必要に応じて、適宜連携を図れる体制を取っている。	緊急時にすぐに連絡ができるよう職員間でも共有を行う。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	87.5%	12.5%	ニーズがあったご利用者様に対して関係機関連携や保育所等訪問(別事業)を展開している。	関係機関との定期的な連絡調整をしていく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	26	87.5%	12.5%	ニーズがあったご利用者様に対して関係機関連携や保育所等訪問(別事業)を展開している。	関係機関との定期的な連絡調整をしていく。
	27	87.5%	12.5%	他団体・他事業所の研修に可能な限り参加している。	研修内容を研修不参加の職員にフィードバックしていきたい。
	28	50.0%	50.0%	保育所等訪問(別事業)を展開している。	障がいのない子どもたちとの交流機会は未実施。
	29	37.5%	62.5%	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	現在、自立支援協議会への参加はない状況である。
	30	100.0%	0.0%	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	日ごとの情報共有で一步先の情報提供ができるよう日々意識をしていく。
	31	62.5%	37.5%	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	ペアレントトレーニング等は実施していない。
保護者への説明責任等	32	87.5%	12.5%	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	利用者負担が無いご家庭(無償化対象児童)の保護者様にも後々のことを踏まえて丁寧な説明をしていきたい。
	33	100.0%	0.0%	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のわらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	要望があればルビ有版、文字拡大版を用意していく。
	34	75.0%	25.0%	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	時間が合わない保護者様も居られるので、送迎やお迎え時でも可能な限りの情報交換を心掛ける。
	35	25.0%	75.0%	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	必要があれば設立の検討をしていく。
	36	100.0%	0.0%	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	保護者様からの申入れやご意見・ご相談が管理者だけでなく、現場指導員や送迎担当者にある場合があるので、情報の共有を徹底していきたい。
	37	37.5%	62.5%	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	現在も会報等は未実施。SNS等を利用した情報共有を準備している。
	38	100.0%	0.0%	個人情報の取扱いに十分注意している	今後も徹底した守秘義務についての意識付けを心掛ける。
	39	87.5%	12.5%	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	障がい名や特性で一括りにするのではなく、ご利用者様の特性に合わせた対応を各支援員が心がけていきたい。
	40	25.0%	75.0%	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	現在は関係者以外の者には利用者様たちと関わる機会は設けていない。
	非常時等の対応	41	87.5%	12.5%	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している
42		100.0%	0.0%	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	ご利用者様にも想定をしながら訓練を行ってほしい。
43		100.0%	0.0%	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	現在療育中に服薬が必要にご利用者様はいないが、今後必要であれば対応をしていく。
44		62.5%	37.5%	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	現在指示書の提出は無く、食事提供(おやつ含む)は実施していない。
45		87.5%	12.5%	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	細かなことでも作成を各支援員が意識し、様々な事象を防ぐ能力や対応力をつけていきたい。
46		87.5%	12.5%	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	日々の支援の中で、各職員が呼びかけあい、意識をしていけるような環境作りを行う。
47		100.0%	0.0%	虐待防止委員会及び身体拘束適正化検討委員会を定期的に開催し、その結果について従業者に周知徹底している	各職員が自発的に防止策を練っていただけるような意識付けを行っていく。
48		100.0%	0.0%	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	身体拘束についても研修の内容の中で触れているが、継続して研修では取り上げていく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。